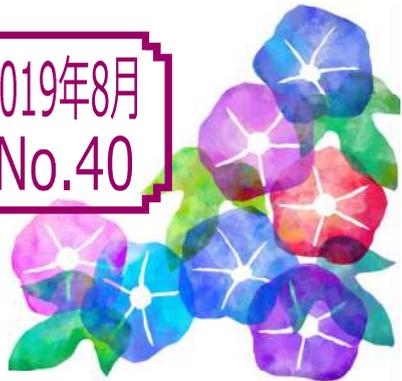


KNグローバルリサーチレポート

2019年8月
No.40



暑中お見舞い申し上げます。東海地方では、先月 28 日に梅雨が明けました。今年の梅雨は平年に比べ日照時間が短かったようで、野菜の価格高騰や夏物商品の販売低迷などに影響が及んでいます。

遠州地域の年間日照時間は全国トップクラス

浜松の過去 5 年間の年間平均日照時間は 2,291.1 時間で、全国トップクラスである。2018 年の年間日照時間の上位は、南鳥島 2,930.4 時間、磐田 2,444.4 時間、上田 2,430.6 時間、豊橋 2,414.6 時間、佐久 2,410.0 時間、御前崎 2,408.9 時間の順で、浜松は 2,362.6 時間となっている。

■表1 日照時間の比較例

	2014	2015	2016	2017	2018	平均
浜松	2,324.3	2,156.7	2,243.5	2,368.7	2,362.6	2,291.1
秋田	1,647.3	1,712.6	1,673.5	1,600.4	1,526.2	1,632.0
沖縄	1,760.2	1,813.8	1,757.2	1,646.0	1,876.5	1,770.7
東京	2,104.0	1,966.6	1,841.7	2,050.9	2,112.2	2,015.1

気象庁の「過去の気象データ検索」より作成

【冬から春に晴れの日が多い】

■表2 浜松の月別の日照時間

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平年*	200.4	182.4	198.6	193.6	191.9	143.8	179.3	198.1	162.6	162.6	168.3	197.5
2018年	220.2	207.1	209.8	220.9	209.1	178.2	223.9	249.2	105.8	181.1	175.0	182.3

*「平年」は1981年から2010年の平均値 気象庁の「過去の気象データ検索」より作成

浜松の日照時間は、6 月の梅雨の時期が最も少なく、梅雨明けの 8 月に多くなり、9 月から 11 月の秋は比較的少なく、1 月から 5 月の冬から春は多い。

【今年の 7 月は日照不足】

今年の東海地方の梅雨入りは 6 月 7 日頃（平年は 6 月 8 日頃、昨年は 6 月 5 日頃）で、梅雨明けは 7 月 28 日頃（平年は 7 月 21 日頃、昨年は 7 月 9 日頃）であった。

6 月の日照時間の合計は 170.7 時間と、平年より多く昨年並みだったが、7 月 1 日から梅雨明け前日の 27 日まで日照時間は、66.7 時間と平年の 44.5%となった。

気象庁のホームページ「過去の気象データ検索」では、全国の各観測点での気温や降水量などのデータを、毎日公開し保存している。この天候データと AI を利用して、「日」単位で売上予測や来店予測、在庫管理などが可能となってきた。

■表3 7月の浜松の日照時間

日	平年	昨年	今年
6月計	146.5	178.2	170.7
1	4.6	8.7	0.1
2	4.7	7.8	0.4
3	4.8	8.3	2.3
4	4.8	0.2	2.1
5	4.9	0	0
6	4.9	0	0.3
7	5.0	0.8	0.2
8	5.0	7.2	0
9	5.0	10.3	2.2
10	5.1	12.4	10.6
11	5.1	8.7	0.2
12	5.2	0.9	6.5
13	5.2	9.0	0.2
14	5.3	13.0	0.4
15	5.4	12.7	0.1
16	5.5	9.2	0.1
17	5.7	2.6	6.7
18	5.8	6.3	1.6
19	6.0	7.9	1.2
20	6.1	11.2	1.5
21	6.2	11.9	0
22	6.4	12.4	0.3
23	6.5	11.6	9.7
24	6.6	9.3	7.0
25	6.6	6.3	6.7
26	6.7	2.9	6.5
27	6.7	2.9	0.8
合計	149.8	194.5	66.7



アクティブラーニング

～米国HighScope幼児教育カリキュラム 視察記～ (No.4)

【質の高い幼児教育とは】

今秋から、消費税率が8%から10%に上がる。それを財源として、幼児教育や保育が無償化される。日本では少子化対策として子育て世代の経済的な負担軽減のために実施されるが、海外では質の高い幼児教育や保育の重要性が指摘されている。

【ペリー幼児教育計画の追跡調査】

本ニュースレターの前号(No.39)で触れたが、1960年代から現在まで追跡調査が続く「ペリー幼児教育計画(Perry Preschool Project)」がある。

この追跡調査によると、**5歳時**で就学準備(Ready for school)を調べたところ、幼児教育を受けたグループでは67%が準備できていたが、受けていないグループでは28%にとどまった。**14歳時**では、学校との関わり(Committed to school;出席や宿題など)や成績(Basic achievement;学業到達テスト)で、幼児教育を受けたグループの方が良い結果となった。**19歳時**では、高校の卒業率(High school graduate)が高く、**27歳時と40歳時**では、収入(Earned \$20,000 or more)や逮捕率(Arrested 5 or more times)や持ち家などで、幼児教育を受けたグループの方が優れた結果となった。

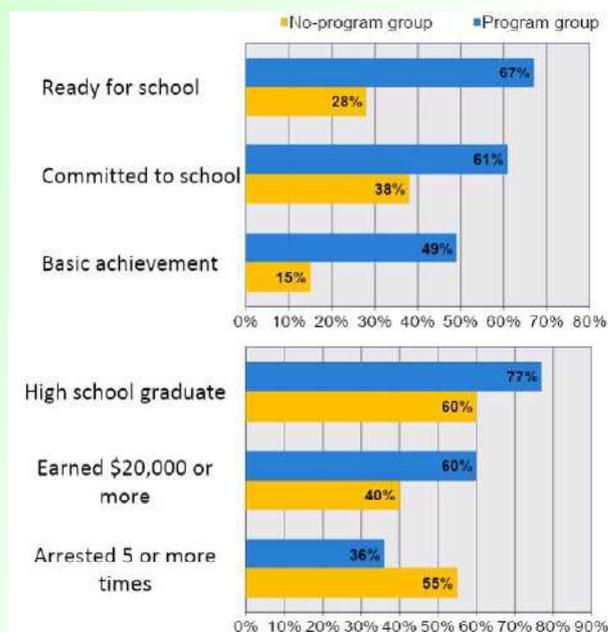
「ペリー幼児教育計画」の提案者であり、HighScope教育財団を設立したデビッド・ワイカート氏は『質の高い幼児教育を受けることは、子どもの人生を豊かにする極めて効果的な方法である』としている。

本年、この追跡調査の**50代**での結果が発表された。

ペリー幼稚園で幼児教育を受けたグループの方が、犯罪率は低く、就労率は高く、収入が多く、健康状況も良好で健康保険への加入率が高かった。また、幼児教育の参加者はポジティブな性格で実行機能が高いとの結果となった。

さらに、この**50代**での追跡調査では、その子どもたちへの調査も行われた。例えば、子どもたちが停学を経験せずに高校を卒業した事について調べたところ、幼児教育を受けた親の子どもたちは67%であったのに対し、幼児教育を受けていない親の子どもたちは40%であった。また、教育を受けた親の子どもたちの59%はフルタイムで就職しているか自営業を営んでいるが、教育を受けていない子どもたちの就労は42%にとどまった。

これらの調査は、ノーベル経済学賞を受賞したヘッグマン博士により検証されているが、彼が投資収益率を計算したところ「幼児教育に1ドルかけると7ドルが社会に還元される」事がわかった。(これらの調査結果については、東洋経済新報社「幼児教育の経済学」やディスカヴァー・トゥエンティワン社「学力の経済学」もご覧下さい)



出所)子どもの発達科学研究所資料より

執筆 = 西川公一郎 : 元浜松市議会議員、防災士

(公社)子どもの発達科学研究所 事務局長

浜松市中区 在住 ko-ichi@24kawa.org